

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和8年3月31日

事業所名 社会福祉法人至泉会 すこやか園 児童発達支援事業

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容 又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			
	2	利用者定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・ロッカーの位置、写真、手順表の利用など必要に応じた工夫をしている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・一つの部屋だけで過ごすのではなく、活動に合わせて複数の部屋を使用するなどの工夫をしている。 ・次に気持ちを切り替えるため、遊具の出し入れ、部屋の移動を行っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められている環境になっているか。	○			
業 務	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○			

改善	7	保護者等向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・年に2回面談を実施し、状況の確認や助言（先輩職員から）受けている。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		・指定管理を受けているので、市からの評価を受け、業務改善に繋がっている。 ・園の運営委員による評価を受けている。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・法人内で開催された研修に多くの職員が参加できるようにした。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		・ホームページにて公表している。
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		・面談の中で、保護者と本人の様子を確認し、作成している。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・担当職員のアセスメントをもとに個別支援計画を作成している。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		

	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・それぞれのグループごとに合わせて活動内容を考えている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせを行い、その日に行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせを行い、その日に行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか。	○		・その日の子どもの様子や支援内容を振り返るとともに、次に繋げていくための関わりや支援についても共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
関	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画して	○			

係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携		いるか。				
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		・ 保育所等訪問支援事業と連携し、その中で、支援している。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・ 保育所等訪問支援事業と連携し、保育園、こども園、幼稚園と共有する機会を作っている。	
	27	就学の移行の際には、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・ 就学に向けて教育センターと情報共有を行っている。	
	28	地域の児童発達支援センターと連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○			
	29	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中でこどもと活動する機会があるか。		○	・ 利用者の大半がこども園、幼稚園、保育園と併行利用のため、交流の機会を設けていない。	
	30	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
	31	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の	○			

		参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。				
保 護 者 へ の 説 明 等	32	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	33	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもの家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	34	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			
	35	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			
	36	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設けるなどの支援をしているか。	○		・懇談会や保護者向け講演会を実施している。	
	37	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	38	定期的に通信等を発行することや、HP や SNS 等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		・ Instagram にて園の様子を発信したり、月の予定を配付している。	

	39	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		
	40	障害のある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		
	41	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		・ふれあい福祉まつりにて地域の方々と交流している。
	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		・日程上の難しさがあるか、情報発信を行うことで対応している。
	43	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		
非常時等の対応	44	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		
	45	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		・必要に応じて行っている。
	46	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		

47	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図れるよう、安全蹴角に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
48	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討しているか。	○			
49	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
50	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○			

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。